令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　173

事務事業名称		枚方宿地区まちづくり事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　観光にぎわい部		課:　観光交流課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	観光・プロモーション	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○	○		
	事業期間	事業開始：　2002(H14)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	事務決裁規程						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	枚方宿地区街なみ環境整備事業補助金　補助金性質:　事業費補助						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	歴史的な町並みが保たれているとともに、平日も観光客で賑わいを見せている。また、市民・商業者のまちづくりにより、活気あふれた観光地の一つとなっている。						
	対象者(受益者)	枚方宿地区まちづくり協議会						
	現状・課題	地元自治会や商店会、関係団体により組織された枚方宿地区まちづくり協議会により、歴史を生かした町並みの景観形成の促進と地域の活性に繋がる賑わいづくりに向けた活動が行われており、行政による支援及び連携を必要としている。また、枚方宿地区において、歴史文化情報を伝達するための案内板、石碑等を設置してきており、経年劣化に対する修繕や更新を適宜実施していく必要がある。また、観光施策の展開や枚方宿地区を取り巻く環境の変化に応じ、多言語化対応や新たなサインの設置など観光客をはじめとした枚方宿を訪れる人に分かりやすく情報を発信していく必要がある。						
	事業の概要	枚方宿地区において、協議会活動を支援するとともに連携して事業推進を図り、既存の案内板・石碑等の設置の維持管理や占用許可等の行政手続き、新規設置の検討を行う。						
	年間の主な事務	・補助金交付 ・毎月第二日曜に開催される「枚方宿くらわんか五六市」(8月のみ、「五六のあかり」)の開催に向け、毎月2回実施される会議への参加及び運営支援 ・枚方宿街道菊花祭に係る運営支援 ・枚方宿地区における案内板の破損修繕更新						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.85人	0.30人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.05人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	6,535	2,463	—	—		
		会計年度任用職員	161	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		6,696	2,463	—	—		
	物件費計		999	1,000	—	—	1,350	74.1%
歳出計			7,695	3,463	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			999	1,000	—	—	1,350	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 補助金の交付。	件	1 件	1 件	— 件	— 件
② 歴史的案内板・石碑等の点検を実施する。	回	1 回	1 回	— 回	— 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明	枚方宿くらわんか五六市等の開催
指標	毎月第2日曜の枚方宿くらわんか五六市(8月のみ、「五六のあかり」)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	12	12	12	12	件
実績	12	11	—	—	件
算出方法	イベント件数を集計				

ロジックモデル

アウトプット②

説明	設置された看板が多くの市民に利用される。
指標	QRコード貼付により多言語化対応したホームページの閲覧数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	20	30	40	50	件
実績	334	1,130	—	—	件
算出方法	QRコード貼付により多言語化対応したホームページの閲覧数を集計				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	イベント来場者数
指標	左記イベントへの来場者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	80,000	81,200	82,400	83,600	人
実績	75,168	49,192	—	—	人
算出方法	来場者数を集計				

アウトカム②

説明	枚方宿地区の歴史文化が多くの市民に認知される。
指標	枚方宿地区の歴史文化を認知している市民の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	40	45	50	55	%
実績	—	93	—	—	%
算出方法	アンケートで枚方宿の歴史文化を知っていると回答した人数／回答者×100				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

市民・商業者によるまちづくりにより、歴史的な町並み保存が継続して実施されるとともに、イベントや情報発信により枚方宿の魅力が市内外に広く認知されている。また、適正に管理された案内看板や石碑により、枚方宿を訪れた方に観光の情報が届き、枚方宿の魅力発信につながっている。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	枚方宿くらわんか五六市の来場者数を設定しているアウトカム指標について、天候の影響などで実績が目標を下回った。また、案内板等については、アウトプット指標の実績が目標を上回ったが、これについては案内板を修繕し、多言語化表示を行ったことにより、アクセス数が多くなったことが影響したと考えられる。アウトカム指標の認知度は令和7年度実績から集計する。
R7年度	①枚方宿くらわんか五六市の来場者数を設定しているアウトカム指標について、悪天候による中止の影響などで実績が目標値を下回った。ただ、枚方宿地区まちづくり協議会は、これまでの多様な主体による協働の取組が認められ、近畿風景街道協議会より、「日本風景街道 近畿優秀活動賞」を受賞していることから、対外的に日々の活動が評価されているものと判断している。②また、観光案内板等については、補修に合わせ更新したことで、アクセス数が多くなったことが影響し、アウトプット指標、アウトカム指標において目標を達成できた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度 取組方針	①枚方宿地区の魅力発信については、毎月開催している五六市の来場者数の増加に繋がる新たな企画内容及び周知方法を検討するよう、五六市会議で促していく。また「日本風景街道 近畿優秀活動賞」を受賞したことに伴う活動支援金（最大25万円）を有効活用するよう助言していく。②引き続き、広報・周知を工夫しながら、枚方宿地区の歴史文化の認知度等の拡大に向けて取り組みを進める。	R8年度 方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　183

事務事業名称		枚方フェスティバル協議会支援事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　観光にぎわい部	課：　観光交流課		区分	任意的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち			細区分	任意的区分		
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち			性質	観光・プロモーション		
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1976（S51）年度　～　事業終了予定：　未定（継続実施含む）						
	根拠法令等	事務決裁規程						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	枚方フェスティバル協議会事業補助金　補助金性質：　事業費補助						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	市民主体で枚方ならではの地域資源の魅力が発信されるとともに賑わいが創出され、交流人口が増加し地域経済が活性化される。						
	対象者（受益者）	市内在住者及び近隣住民						
	現状・課題	枚方の魅力発信や市内外から交流人口の増加による賑わい創出、市民の郷土愛の醸成を目指し、枚方フェスティバル協議会及び参画団体により枚方まつりをはじめとする各種イベントが開催されている。市内最大規模の枚方まつりの開催や協議会の運営については、行政の支援や連携が必要とされている。						
	事業の概要	市も参画する枚方フェスティバル協議会について、協議会主催事業である枚方まつりの実施に向けた補助金交付や運営支援を行うとともに、参画団体の各種イベントについても支援を行う。						
	年間の主な事務	・補助金の交付 ・枚方フェスティバル協議会と関係機関との調整事務 ・枚方フェスティバル協議会役員会、事業報告会、運営委員会の出席						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.55人	0.40人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.10人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	4,228	3,284	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	322	0	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	4,550	3,284	—	—		
歳出	物件費計	4,736	4,200	—	—	5,500	76.4%
歳出計		9,286	7,484	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	0	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		0	0	—	—	0	
一般財源（物件費充当分のみ）		4,736	4,200	—	—	5,500	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 補助金交付	件	1 件	1 件	— 件	— 件

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	枚方まつりの開催
指標	枚方まつりの開催数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	1	1	1	1	回
実績	1	1	—	—	回
算出方法	枚方まつりの開催回数の集計				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	左記イベントの来場者数
指標	左記イベントの来場者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	103,000	106,000	109,000	112,000	人
実績	70,000	80,000	—	—	人
算出方法	来場者数を集計（協議会報告）				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

枚方市市民意識調査の「枚方市の観光資源が生かされ、人々の交流が盛んに行われていると感じていますか。」の設問において「感じている」「やや感じている」の回答割合が増加する。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	アウトカム指標である「枚方まつり来場者数」の実績が目標を下回った。近年の猛暑の影響により、令和6年度から秋開催に変更となったため、夏季開催に比べ他のイベント等と重複したことなどから来場者数が伸び悩んだと考えられる。
R7年度	アウトカム指標である「枚方まつり来場者数」の実績が目標を下回った。秋開催による他イベント等の重複や当日の天気が不安定であったことを受け、目標値の達成には至らなかったものの、令和6年度を1万人上回る来場者数となったことから徐々に秋開催が認知されていると考えられる。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	フェスティバル協議会による協賛企業募集など財源確保の取り組みを進めていくとともに、枚方まつり開催に係る周知・各種許認可申請や広報などの支援を行っていく。	R8年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　202

事務事業名称		地域資源活用事業						
担当部署(R8年度機構)		部：　観光にぎわい部		課：　観光交流課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	観光・プロモーション	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2006(H18)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	事務決裁規程						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	街道菊花祭補助金、ひらかた市民菊人形の会運営補助金　補助金性質：　事業費補助						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	枚方ならではの地域資源が市民の郷土愛を育むとともに、地域資源の魅力発信により交流人口が増加し地域経済が活性化される。						
	対象者(受益者)	市内在住者及び近隣住民						
	現状・課題	市の花「菊」「桜」及び「七夕」という地域資源の磨き上げや活用を通して、市民の意識醸成とともに、市の魅力発信やイベントの開催による賑わい創出に取り組んでいく必要がある。						
	事業の概要	・「ひらかた菊花展」への参画及び「枚方宿街道菊花祭」「市民菊人形展」への支援など、市の花「菊」の総合的な情報発信を図るため、これらのイベントを総称した「ひらかた菊フェスティバル」として開催する。また、菊人形の文化を発信するめ、菊人形を制作及び展示を行う「ひらかた市民菊人形の会」の活動に対し補助金を交付する。 ・市の花「桜」を楽しみながら桜をきっかけとした市内周遊を促す観点から、市内桜スポットの照会やフォトキャンペーンなど市民参加型のイベントを実施する。 ・「七夕」をテーマとしたイベントの開催や他主体によるイベント等との連携の促進を図るとともに情報発信を行う。						
	年間の主な事務	・「ひらかた菊花展」に係る関係団体との調整、「枚方宿街道菊花祭」に係る関係団体との調整、「市民菊人形展」に係る関係団体との調整、チラシ・ポスターの作成、イベント情報の発信。「ひらかた市民菊人形の会」への補助金の交付や活動・展示場所の調整・支援 ・桜スポット紹介やフォトキャンペーンの実施 ・ひらかた七夕まつりの開催やイベントに係る関係団体との調整						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.85人	0.75人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.20人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	6,535	6,157	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	875	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	6,535	7,032	—	—		
歳出 物件費計	4,535	4,294	—	—	4,149	103.5%
歳出計	11,070	11,326	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)	4,535	4,294	—	—	4,149	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 菊フェスティバルの開催	回	1 回	1 回	― 回	― 回
② ひらかた市民菊人形の会へ補助金を交付する	件	1 件	1 件	― 件	― 件
③ 桜フォトキャンペーンの開催	回	1 回	1 回	― 回	― 回
④ ひらかた七夕まつりの開催	回	1 回	1 回	― 回	― 回

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル

アウトプット①

説明	ひらかた菊フェスティバルに多くの人が来場する。
指標	ひらかた菊フェスティバルの来場者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	32,000	32,500	33,000	33,500	人
実績	31,404	37,820	―	―	人
算出方法	来場者数を集計				

ロジックモデル

アウトプット②

説明	市民菊人形展の実施
指標	菊フェスティバルの一環として市民菊人形展が「ひらかた市民菊人形の会」により実施される

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	3	3	3	3	回
実績	3	3	―	―	回
算出方法	展示回数				

ロジックモデル

アウトプット③

説明	桜フォトキャンペーンに多くの方が参加する。
指標	桜フォトキャンペーンの投稿数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	250	300	350	400	件
実績	217	184	―	―	件
算出方法	投稿数を集計				

ロジックモデル

アウトプット④

説明	ひらかた七夕まつりに多くの人が訪れる。
指標	イベント来場者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	5,000	5,500	6,000	6,500	人
実績	3,287	5,997	―	―	人
算出方法	来場者数				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	市の花「菊」の認知度が上がる。
指標	市の花「菊」の認知度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	93	93	94	94	%
実績	93	96	―	―	%
算出方法	「菊」が市の花であることを知っている」と回答した人数／回答者人数×100				

アウトカム②

説明	市民菊人形展の来場者
指標	菊フェスティバルの一環として開催される市民菊人形展の来場者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	16,500	16,600	16,700	16,800	人
実績	24,620	36,040	―	―	人
算出方法	隣接展示される「枚方菊花展」と合わせて集計				

アウトカム③

説明	市の花「桜」の認知度が上がり、郷土愛の醸成に繋がる。
指標	市の花「桜」の認知度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	45	50	55	65	%
実績	27	26	―	―	%
算出方法	桜が市の花であることを知っている」と回答した人数／回答者人数×100				

アウトカム④

説明	「七夕伝説ゆかりのまち」であることが広く認知され、郷土愛の醸成に繋がる。
指標	枚方市が「七夕伝説ゆかりのまち」であることに対する認知度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	91	91	92	92	%
実績	89	91	―	―	%
算出方法	アンケートにて枚方市が「七夕伝説ゆかりのまち」ということを「知っている」と回答した人数／アンケート回答者数×100				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

市の花「菊」や「桜」、枚方が「七夕伝説ゆかりのまち」であることの認知度が上がり、市民の郷土愛の醸成に繋がっているとともに、菊や桜、七夕伝説をテーマにしたイベントや特産品で市民に限らず多くの人で賑わっている状態。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	①～④のアウトプット・アウトカム指標のほとんどが、目標値よりも下回る結果となった。桜の認知度については桜キャンペーンにおける周知不足の影響と考えられる。また、ひらかた七夕まつりにおいては令和5年度は2日館の開催で4,710人の来場があったが、令和6年度においては、他の団体「ゆめのほしフェスタ」との連携による初の広域イベントとして7月7日に1日での開催としたところ、3,287人の来場があり、来場者数が増加したことから、イベントの魅力向上に繋がったと考える。
R7 年度	①・②の市の花「菊」に関する事業についてはアウトプット・アウトカム指標が目標値を上回った。 ③の市の花「桜」に関する事業については、アウトプット・アウトカム指標が目標値を下回った。観光フリーペーパー「ひらいろ」で特集を組んだが、周知が十分でなかったと考えられる。 ④の七夕発信事業については、まつり会場を1会場から5会場に拡大したため、来場者数が大幅に増加し、目標数を達成したと考えられる。
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度 取組方針	①・②引き続き、広報・周知を工夫しながら、市の花「菊」の認知度等の拡大に向けて取り組みを進める。 ③桜フォトキャンペーンの投稿数の増加に向けて、ひらいろ実行委員会で対応策について協議をしていく。 ④R7年度と同様に関係団体と連携を図ることで市駅周辺で一体感を持たせたイベントを開催していく。	R8年度 方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　514

事務事業名称		にぎわい空間創出事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　観光にぎわい部	課：　観光交流課		区分	任意的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち			細区分	任意的区分		
	総合計画 施策目標	18.人々が集い賑わい、魅力あふれる中心市街地のあるまち			性質	観光・プロモーション		
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2007(H19)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	事務決裁規程						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	民間主体で賑わいが創出され、交流人口が増加し地域経済が活性化される。						
	対象者(受益者)	イベント主催者						
	現状・課題	枚方市駅すぐの岡東中央公園において、公園占用許可申請に基づく公園利用により民間主体の多数のイベントが開催されている。民間団体による賑わい創出を促進するため、引き続き、行政として会場の確保や広報、備品の貸し出し等の支援が必要である。						
	事業の概要	ホームページで公表している「にぎわい空間創出事業市民イベント支援要領」に基づき、民間団体からの申し込みを受け、会場予約及び公園の使用に係る申請手続き、広報周知、備品貸し出しなど、各種イベントの実施支援を行う。						
	年間の主な事務	・民間団体からの支援の申請受理 ・公園管理部署への公園占用許可及び公園占用料減免の申請 ・広報ひらかた、市公式SNS、ホームページなどによる情報発信 ・備品の貸し出し						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.30人	0.45人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.10人	0.20人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	2,306	3,694	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	322	875	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	2,628	4,569	—	—		
歳出	物件費計	0	0	—	—	0	0.0%
歳出計		2,628	4,569	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)		0	0	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 支援を実施する	件	26 件	31 件	― 件	― 件

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル

アウトプット①

説明：岡東中央公園で数多くのイベントが開催される。

指標：イベント開催回数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	25	26	27	28	回
実績	26	31	―	―	回

算出方法：イベント開催数を算出

ロジックモデル

アウトプット②

説明：さまざまな団体が主体となって賑わい創出を担う。

指標：イベント開催団体数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	23	24	25	26	団体
実績	23	27	―	―	団体

算出方法：イベント開催団体数を集計

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：左記イベント来場者数

指標：左記イベント来場者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	12,824	34,317	34,317	34,317	人
実績	50,670	41,252	―	―	人

算出方法：主催者報告に基づくイベント来場者数を合計し算出

アウトカム②

説明：左記イベント来場者数

指標：左記イベント来場者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	12,824	34,317	34,317	34,317	人
実績	50,670	41,252	―	―	人

算出方法：主催者報告に基づくイベント来場者数を合計し算出

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

市民意識調査で「枚方市駅周辺が賑わい、魅力あふれる中心市街地であると感じていますか」に「感じている」「やや感じている」の割合が増加する。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	アウトプット指標、アウトカム指標において、目標を達成できた。特にアウトカム指標のイベント来場者数については、活用のニーズも増える中、集客力の大きいイベントが複数回開催されたことで大幅に上回った。
R7年度	アウトプット指標、アウトカム指標において、目標を達成できた。特にアウトカム指標のイベント来場者数については、活用のニーズも増える中、集客力の大きいイベントが複数回開催されたことで大幅に上回った。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度 取組方針	引き続き、民間主体によるさらなる賑わい創出を目指し、課題の整理を行いながら支援を実施していく。	R8年度 方向性	**現状維持**

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
		現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　532

事務事業名称		観光まちづくり推進事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　観光にぎわい部		課:　観光交流課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	観光・プロモーション	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○	—		
	事業期間	事業開始：　2018(H30)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	事務決裁規定						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	くらわんかツーリズムコーディネート業務補助金、観光資源保存・活用業務補助金　補助金性質:　事業費補助						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	地域資源の魅力が発信され、交流人口が増加し地域経済が活性化される。						
	対象者(受益者)	市内在住者及び近隣市民、本市への観光客、市内事業者						
	現状・課題	大阪・京都まで短時間で移動できる好立地ゆえに通過点となっており、市内での消費拡大や滞在時間の伸長につながりにくい状況がある。また、観光素材は各種あるが周遊を促進できておらず、イベントによる賑わい創出が図られるものの継続的な集客にはつながっていない。既存観光資源の活用および磨き上げによる地域内連携の促進や観光消費を促す体験コンテンツや食・特産品を創出していく必要がある。						
	事業の概要	・観光施策の担い手となる観光関連団体として、枚方文化観光協会については、歴史や文化・伝承といった本市観光施策の「礎」となる地域資源の保存や継承・活用に根差した事業展開を求めるものとし、観光地域づくり法人(DMO)については、これら地域資源を観光事業の題材に、経営視点を持って地域経済の活性化につなげていく事業プロデュースを行うものとし、相互に連携・協力しながら観光施策を戦略的に推進できる体制を構築していく。 ・マーケティング分析に基づくコンテンツ開発とプロモーションと効果測定 ・枚方市の観光フリーペーパー「ひらいろ」の制作とWEBサイトの運営 ・淀川河川敷枚方エリアかわまちづくり計画に基づくかわとまちが一体となった活用による地域活性化 ・民間事業者との連携の推進						
	年間の主な事務	・大阪観光局への委託を行い、観光関連団体と連携のもと、マーケティング分析に基づくコンテンツ開発とプロモーションと効果測定を行う。 ・観光フリーペーパー制作実行委員会への負担金交付、編集会議への参画、庁内外への冊子発送業務 ・協議会運営及び民間事業者による賑わい創出のための環境整備、参画団体事業の広報支援 ・活用スキームの検討及び民間事業者による賑わい創出のための環境整備 ・枚方文化観光協会に団体運営業務や自主事業のための負担金を交付するほか、市の観光施策の方向性に合致する取り組みに対する補助金の交付や、市として担うべき都市間交流業務や観光事業を外注する位置付けのものについては業務委託を行う。 ・その他、民間事業者主体イベントへの支援や連携						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	2.65人	2.65人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.40人	0.10人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	20,373	21,754	—	—		
		会計年度任用職員	1,287	438	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		21,660	22,192	—	—		
	物件費計		37,140	21,566	—	—	33,187	65.0%
歳出計			58,800	43,758	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		6,453	1,404	—	—	1,380	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			6,453	1,404	—	—	1,380	
一般財源(物件費充当分のみ)			30,687	20,162	—	—	31,807	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 大阪観光局との連携によるプロモーション	件	1 件	1 件	— 件	— 件
② 観光フリーペーパー制作実行委員会への負担金交付	件	1 件	1 件	— 件	— 件
③ かわまちづくり関連事業の実施	件	1 件	1 件	— 件	— 件
④ 枚方文化観光協会への負担金交付	件	1 件	1 件	— 件	— 件
⑤ 枚方文化観光協会への補助金交付	件	2 件	0 件	— 件	— 件
⑥ 枚方文化観光協会への業務委託	件	2 件	1 件	— 件	— 件

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明: 大阪観光局と連携したプロモーションで枚方市観光情報の発信を行う。

指標: プロモーション施策におけるWEBサイト等のページクリック数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	800	900	1,000	1,100	回
実績	812	1,079	—	—	回

算出方法: WEBサイトプロモーション期間における1週間あたりクリック数

ロジックモデル

アウトプット②

説明: ひらいろWEB版の情報に多くの人が触れる。

指標: WEBビュー数(月間)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	33,000	34,000	35,000	36,000	回
実績	35,143	35,957	—	—	回

算出方法: ひらいろ内での報告に基づく

ロジックモデル

アウトプット③

説明: 淀川河川敷枚方エリアに多くの人が訪れ賑わいが創出される。

指標: 淀川河川公園枚方地区来場者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	550,000	575,000	600,000	625,000	人
実績	469,995	567,620	—	—	人

算出方法: 淀川河川公園管理センターからの報告に基づく

ロジックモデル

アウトプット④

説明: 枚方文化観光協会により観光事業が実施される。

指標: 枚方文化観光協会自主事業実施件数(市からの委託・補助による事業、指定管理事業を除く)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	15	16	17	18	件
実績	16	20	—	—	件

算出方法: 枚方文化観光協会の事業報告に基づく

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: 観光を目的とした市内での消費額が増加する。

指標: 観光消費推計額

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	602,862	678,080	753,297	828,515	千円
実績	533,784	642,146	—	—	千円

算出方法: 観光消費単価(補正後)×一週間当たり平均滞在(訪問)者数(補正後)

アウトカム②

説明: 観光を目的とした市内での消費額が増加する。

指標: 観光消費推計額

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	602,862	678,080	753,297	828,515	千円
実績	533,784	642,146	—	—	千円

算出方法: 観光消費単価(補正後)×一週間当たり平均滞在(訪問)者数(補正後)

アウトカム③

説明: 観光を目的とした市内での消費額が増加する。

指標: 観光消費推計額

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	602,862	678,080	753,297	828,515	千円
実績	533,784	642,146	—	—	千円

算出方法: 観光消費単価(補正後)×一週間当たり平均滞在(訪問)者数(補正後)

アウトカム④

説明: 地域資源を活かした観光体験により高い満足度を得る。

指標: 協会自主事業参加者の満足度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	96	96	97	97	%
実績	87	90	—	—	%

算出方法: 枚方文化観光協会実施アンケートに基づく【「満足した」と回答した人数/回答者人数×100】

ロジックモデル

アウトプット⑤

説明	観光協会と民間事業者との連携によりツーリズム・体験コンテンツなどが提供される。
指標	創出されたツーリズム、体験コンテンツの数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	8	9	10	11	件
実績	8	9	0	0	件
算出方法	年度中に実施した連携件数				

アウトカム⑤

説明	観光を目的とした市内での消費額が増加する。
指標	観光消費推計額

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	602,862	678,080	753,297	828,515	千円
実績	533,784	642,146	—	—	千円
算出方法	観光消費単価(補正後)×一週間当たり平均滞在(訪問)者数(補正後)				

ロジックモデル

アウトプット⑥

説明	観光協会への業務委託により友好交流都市が主催するイベントに及び本市の友好交流都市物産展に出店し地域資源をPRする。
指標	観光関連イベント等への出店回数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	8	4	4	4	%
実績	9	4	—	—	%
算出方法	R7からは3種類のイベントと本市友好交流都市物産展のみ				

アウトカム⑥

説明	地域資源をPRするイベント出店時の売上額が増加する。
指標	イベント出店時の売上額

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	800,000	500,000	500,000	500,000	円
実績	827,220	712,400	—	—	円
算出方法	R7からは3種類のイベントと本市友好交流都市物産展のみ				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

観光で本市を訪問した市外(国外含む)の方が、観光情報を得て本市の観光を楽しみ消費活動を行うことにより、本市の経済活性化に寄与する。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	アウトプットについては概ね達成できたが、雨天等による中止や猛暑が10月頃まで続いた影響で、淀川河川公園枚方来場者数は達成できなかった。観光消費推計額は観光消費単価及び一週間あたり平均滞在者数ともに継続した取り組みが必要であると考える。観光協会自主事業満足度はウォークイベントの一部コースのアンケート結果によりアウトカム指標が一部達成できず、新たなコース作りなど検討が必要と考える。
R7年度	アウトプットについては、概ね達成できた。大阪観光局と連携した観光情報発信については、万博開催に合わせてPRを行うことで、WEBページが閲覧されていることから一定効果があったと考えられる。アウトカムである観光消費推計額については達成できていないことから、観光消費単価及び一週間あたり平均滞在者数を増加させる取り組みが必要であると考える。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	①大阪観光局との連携は観光データ調査分析を主軸としながら、観光関係団体と連携することでツアー造成等に取り組んでいく。 ②観光フリーペーパー「ひらいろ」は、引き続きwebビュー数を増加するよう、冊子の認知度向上に取り組む。 ④～⑥観光協会については、事業の在り方を協議しながら連携を図っていく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　534

事務事業名称		淀川舟運推進事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　観光にぎわい部		課:　観光交流課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	観光・プロモーション	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○	○		
	事業期間	事業開始：　2000(H12)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	淀川舟運整備推進協議会規約						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	淀川舟運が、平時は枚方ならではの観光コンテンツとして、地域資源の魅力発信や交流人口の増加、地域経済の活性化に寄与するとともに、災害時においては輸送手段として活用できる状態になっている。						
	対象者(受益者)	市内在住者及び本市への観光客						
	現状・課題	平成7年、阪神淡路大震災を契機に災害時における水上輸送の重要性が見直され、平成12年に淀川沿川市町で構成する淀川舟運整備推進協議会を設立し、淀川舟運の活用に関する情報交換や国への要望活動を継続して実施してきた。この間、平成29年度に舟運事業の定期運航が実現し、令和3年度には2025大阪関西万博を契機に本市も参画する淀川舟運活性化協議会が設立され、大阪湾から京都までの航路確保が目標に掲げられるなど淀川舟運の活性化の機運が大きく高まっている。防災活用を見据えた平時の淀川舟運活用を推進するには、引き続き、航路確保等の整備や各設備の利用促進を国に要望する必要があるほか、船上体験の充実や沿川各地における賑わい創出を進める必要がある。						
	事業の概要	淀川舟運整備推進協議会の運営(会長市兼事務局)						
	年間の主な事務	・幹事会、総会の開催 ・国土交通省近畿地方整備局へ要望活動 ・舟運事業者が行う定期運航のPR活動の支援 ・沿川市町との情報交換						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.40人	0.50人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	3,075	4,105	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		3,075	4,105	—	—		
	物件費計		0	0	—	—	0	0.0%
歳出計			3,075	4,105	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			0	0	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 要望活動の実施	回	1 回	1 回	— 回	— 回
② 舟運事業におけるPR活動の支援(市HP及びSNSなど)	回	2 回	2 回	— 回	— 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 事業者が淀川舟運事業を実施する。

指標: 舟運事業者が運航する舟運事業の数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	40	40	40	40	回
実績	36	29	—	—	回

算出方法: 事業実施数

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: 淀川舟運に多くの人が乗船する。

指標: 本協議会が後援する淀川舟運事業における乗船者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	1,740	2,294	2,847	3,400	人
実績	1,876	1,882	—	—	人

算出方法: 乗船者数

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

舟運事業が、より多くの観光客(インバウンド含む)が訪れる観光コンテンツとなり、持続的な事業として成立している。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	アウトプット指標の実施回数は実績が目標を下回ったが、アウトカム指標の乗船者数については、これまでの沿線各団体と連携した淀川舟運の活性化に向けた取組等により関心が高まり、目標を達成したと考えられる。
R7年度	沿線各団体と連携した淀川舟運の活性化に向けた取組等を行ったが、大阪・関西万博の影響で舟運事業件数は減少したため、アウトプット指標の実施回数実績が目標を下回り、アウトカム指標の乗船者数についても目標を下回ったものの、1便あたりの乗船者数は増加した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	淀川舟運整備推進協議会の事務局として、国土交通省近畿地方整備局へ要望活動を行うほか、沿川各地で舟運事業による賑わい創出や災害時において舟運が活用できる状態を目指し、舟運事業者や沿川市町等との情報交換等を行い、さらなる舟運の活性化に取り組む。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　535

事務事業名称		国内友好都市等交流促進事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　観光にぎわい部		課：　観光交流課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	観光・プロモーション	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1974(S49)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	培われてきた交流がさらに深まることにより、市民福祉が向上し、市の発展につながっている。						
	対象者(受益者)	市内在住者						
	現状・課題	各友好都市及び市民交流都市との間で、提携前後から各種交流事業が実施されてきている。職員・関係者の親善交流や各種イベントへの相互出展から発展させ、市民交流の促進や地域経済の活性化に結び付けていく必要がある。						
	事業の概要	都市交流事業の一環として、毎年11月に友好都市(四万十市、別海町、名護市)や市民交流都市(伊達市、天川村、波佐見町)・旧友好都市で現在も地域間交流を継続している高松市(旧塩江町)及び枚方市の名産品を集めた物産展を開催する。 枚方市・別海町少年少女ふれあいの翼により、隔年で相互に中学生が訪問し交流。 別海町が実施する酪農青年と独身女性との交流事業「菊と緑の会」への協力。「別海町産業祭」への出店。 名護市で開催される「やんばる産業まつり」への出店や「名護さくらまつり」への出席。 その他、国内友好都市との各種周年事業の開催など。						
	年間の主な事務	・友好・交流都市物産展の開催 ・各交流事業の実施及び参加調整						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.85人	0.85人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	6,535	6,978	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	6,535	6,978	—	—		
歳出	物件費計	6,457	2,581	—	—	3,694	69.9%
歳出計		12,992	9,559	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)		6,457	2,581	—	—	3,694	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 友好・交流都市物産展の開催	回	1 回	1 回	― 回	― 回
② 国内友好都市等交流促進事業を実施する。	回	1 回	1 回	― 回	― 回

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル

アウトプット①

説明：友好・交流都市物産展開催により多数の来場者で賑わう。

指標：友好・交流都市物産展の来場者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	6,000	7,000	8,000	9,000	人
実績	7,670	9,490	―	―	人
算出方法	物産展開催時に計測				

ロジックモデル

アウトプット②

説明：国内友好都市等交流促進事業に多数の人が参加する。

指標：交流事業の参加者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	15	15	15	15	人
実績	13	15	―	―	人
算出方法	ふれあいの翼参加者数の総数（ただし、「菊と緑の会」参加者は除く）				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：市民の友好都市及び市民交流都市の認知度が高まる。

指標：本市の友好・交流都市の認知度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	55	60	63	67	%
実績	63	65	―	―	%
算出方法	アンケートにて認知していると回答した人数/アンケート回答者数×100によって算出される各都市の認知割合の平均				

アウトカム②

説明：市民の友好都市及び市民交流都市の認知度が高まる。

指標：本市の友好・交流都市の認知度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	55	60	63	67	%
実績	63	65	―	―	%
算出方法	アンケートにて認知していると回答した人数/アンケート回答者数×100によって算出される各都市の認知割合の平均				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

国内友好都市及び市民交流都市に興味・関心を持つ市民・事業者が増加するとともに、相互訪問や都市間連携による特産品の開発による商業振興などが実現する。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	①ステージイベント等の併設で集客が伸び、アウトプット、アウトカム指標ともに、目標を達成した。 ②アウトプット指標の実績が目標を下回ったが、ふれあいの翼の参加者には、市内大学やT－SITEとの連携により、別海町にはないコンテンツを提供し、枚方市の魅力を伝えることができ、アウトカム指標である認知度は目標を達成できた。
R7年度	①ステージイベントや各友好交流都市の特産品が当たる抽選会の実施や、奥ひら実行委員会と別海町によるコラボ商品の販売などにより、アウトプット、アウトカム指標ともに目標を達成した。 ②別海町での体験を通じて、友好都市の魅力を伝えることができ、アウトカム指標の認知度について目標値を上回ることができた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度 取組方針	市民への友好都市の認知度を高めるため、各友好都市の魅力を発信する場を引き続き提供するとともに、枚方市の魅力を伝えるため、それぞれのまちとの交流機会を積極的に活用していく。	R8年度 方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　539

事務事業名称		枚方市駅観光拠点事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　観光にぎわい部		課:　観光交流課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	観光・プロモーション	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○	○		
	事業期間	事業開始：　2006(H18)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	事務決裁規程						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	地域資源の魅力が発信され、交流人口が増加し地域経済が活性化される。						
	対象者(受益者)	市内在住者及び近隣市民、本市への観光客、市内事業者						
	現状・課題	令和6年9月に枚方モール1階において「枚方市観光案内所Syuku56」をオープンし、「ふらっと訪れた人が今日の楽しみを決められる場所」をコンセプトに、地域資源をつなぐ「くらわんかツーリズム」など本市の魅力的な観光情報の発信や、ホテル連携の取組、枚方ならではの特産品のPRなどを実施し、観光客をはじめとする国内外からの誘客に取り組む。						
	事業の概要	枚方市観光案内所Syuku56について、現代版の枚方宿として、幅広い世代に気軽に立ち寄ってもらえるよう、キッズスペースを備えるとともに、デジタル技術も活用しながら、ひらかたの楽しいに触れ、1日の観光プランを発見できる場として運営する。また、市駅北口広場(マチノマ広場)についても一体的に運営する。						
	年間の主な事務	・開設に向けた整備工事の実施(負担金拠出)及び開設準備の委託 ・運営業務委託の契約手続き、支払い事務 ・委託事業者からの報告管理 ・負担金の支払い事務						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	1.20人	1.20人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.10人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	9,226	9,851	—	—		
		会計年度任用職員	0	438	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		9,226	10,289	—	—		
	物件費計		80,655	28,811	—	—	29,366	98.1%
歳出計			89,881	39,100	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		20,448	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			20,448	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			60,207	28,811	—	—	29,366	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 枚方市観光案内所Syuku56の整備	回	1 回	0 回	― 回	― 回
② 枚方市観光案内所Syuku56を運営する。（一年度当たりの開業日数）	日	205 日	362 日	― 日	― 日

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル　アウトプット①

説明	観光で本市を訪問した市外（国外含む）の方が、枚方市観光案内所Syuku56に来場し、必要な観光情報を得る。
指標	枚方市観光案内所Syuku56利用者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	30,000	72,000	73,000	74,000	人
実績	67,267	59,693	―	―	人
算出方法	Syuku56利用者数を集計（運営受託者より報告）				

ロジックモデル　アウトプット②

説明	観光で本市を訪問した市外（国外含む）の方が、枚方市観光案内所Syuku56に来場し、必要な観光情報を得る。
指標	枚方市観光案内所Syuku56観光案内対応件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	80	100	120	140	件
実績	81	319	―	―	件
算出方法	Syuku56スタッフが対応した案内件数				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	枚方市観光案内所Syuku56の来場者が、必要な観光情報を得て、満足する。
指標	アンケートによる来場者満足度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	90	90	95	95	%
実績	100	97	―	―	%
算出方法	アンケートにて満足していると回答した人数／アンケート回答者数×100				

アウトカム②

説明	枚方市観光案内所Syuku56の来場者が、必要な観光情報を得て、満足する。
指標	アンケートによる来場者満足度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	90	90	95	95	%
実績	100	97	―	―	%
算出方法	アンケートにて満足していると回答した人数／アンケート回答者数×100				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

観光で本市を訪問した市外（国外含む）の方が、枚方市観光案内所Syuku56に来場し、必要な観光情報を得て本市の観光を楽しみ消費活動を行うことにより、本市の経済活性化に寄与する。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	アウトプット指標及びアウトカム指標のいずれも実績が目標を上回り、特に利用者数については、観光案内所としてのコンセプトを持った設計・運営をすることにより、目標を大幅に上回ったと考えられる。
R7年度	アウトプット指標のうち利用者数は実績が目標を下回った。枚方モール開業当時の利用者数が特異値（R6.9月＝1万8000人）であったと推定され、現在は月平均5,000人ほどの利用者で安定して推移しているが、引き続き利用者数の増加に取り組んでいく。観光案内の対応件数については、観光ボランティアガイドによる案内対応により目標値を達成した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度 取組方針	観光案内所Syuku56と隣接する市駅前公社広場（井上造園マチノマ広場）を一体的に運営することで、利用者数を増加させ、市全体の観光情報の発信強化と市駅周辺の回遊性向上に取り組んでいく。また、カンデオホテルズとも連携することで、宿泊客をターゲットとした観光情報発信等に取り組む。	R8年度 方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
	見直し	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　546

事務事業名称		国際化施策推進事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　観光にぎわい部		課:　観光交流課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	11.すべての人がお互いの人権を尊重しあうまち				性質	人権・共生社会	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○	○		
	事業期間	事業開始：　2021(R3)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	事務決裁規程						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	国際化施策に関する考え方に示される「違いを認めあい、みんなで創る、多文化共生のまち・ひらかた」の理念が実現されている状態。						
	対象者(受益者)	外国人市民等、市内在住者						
	現状・課題	時代の変化とともに技術が発展し、友好都市との交流の在り方も様々な可能性が考えられるようになっている。また、入管法の改正により市内に住む外国人住民等も増加していることを背景に、行政サービスにおける外国人対応の充実や市民に向けた国際理解の推進を図る必要がある。						
	事業の概要	国際交流活動への支援・促進、海外諸都市との友好交流、国際理解に関する講座、市民と在住外国人との交流等、国際交流推進に係る事業を実施する。						
	年間の主な事務	・一日相談会(11月) ・日本語ボランティア養成講座、ステップアップ講座(12月～3月) ・国際理解講座(2月) ・通訳翻訳サポーター派遣(通年) ・日本語ボランティア等のボランティア団体の支援(通年) ・海外友好都市との交流促進 　ー上海市長寧区との行政交流(不定期) 　ー韓国霊岩郡との友好交流(11月) 　ーローガン市との友好交流(不定期) ・国際化施策に関する考え方の取組や庁内サインや標識の多言語化						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.50人	0.85人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.55人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	3,844	6,978	—	—		
		会計年度任用職員	1,770	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		5,614	6,978	—	—		
	物件費計		1,687	6,598	—	—	10,842	60.9%
歳出計			7,301	13,576	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		308	279	—	—	190	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			308	279	—	—	190	
一般財源(物件費充当分のみ)			1,379	6,319	—	—	10,652	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 日本語ボランティアステップアップ講座、日本語ボランティア養成講座等を開催する。	回	9 回	7 回	― 回	― 回
② 通訳・翻訳サポーターを派遣する	回	154 回	163 回	― 回	― 回
③ 海外友好都市との交流事業（派遣・受け入れ）を実施する。	回	2 回	3 回	― 回	― 回
④ 国際理解に関する教室・講座等を開催する。	回	2 回	2 回	― 回	― 回
⑤ 日本語教室の活動団体へ活動場所の提供を行う。	回	383 回	355 回	― 回	― 回
⑥ 外国人を対象とした相談会等を開催する。	回	1 回	2 回	― 回	― 回

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル

アウトプット①

説明：多数の人が相談会に訪れる

指標：相談会での相談件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	5	10	15	20	件
実績	7	22	―	―	件

算出方法：実施報告に基づく相談件数

ロジックモデル

アウトプット②

説明：多数の人が講座に参加する

指標：講座への延べ参加人数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	86	200	210	220	人
実績	166	116	―	―	人

算出方法：国際理解講座、日本語ボランティア養成講座などの参加者の合計

ロジックモデル

アウトプット③

説明：通訳・翻訳サポーターに依頼する

指標：通訳・翻訳の依頼件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	155	160	165	170	件
実績	154	163	―	―	件

算出方法：通訳翻訳サポーターの実施件数の合計

ロジックモデル

アウトプット④

説明：海外友好都市との交流に参加する

指標：交流事業の参加人数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	1,034	1,467	1,610	1,761	人
実績	1,326	642	―	―	人

算出方法：長寧区との書画展や、学校でのオンラインでの交流など、交流の方法を問わず、友好都市との交流に参加した人数の合計

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：市民の国際化に係る理解が深まる。

指標：市民対象事業参加者の国際化に対する意識調査

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	48	50	52	54	%
実績	89	66	―	―	%

算出方法：「地域全体が多文化共生社会に向けて取り組んでいる」と回答した人数／アンケート回答者人数×100

アウトカム②

説明：市民の国際化に係る理解が深まる。

指標：市民対象事業参加者の国際化に係る理解度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	48	50	52	54	%
実績	89	66	―	―	%

算出方法：「地域全体が多文化共生社会に向けて取り組んでいる」と回答した人数／アンケート回答者人数×100

アウトカム③

説明：市民の国際化に係る理解が深まる。

指標：市民対象事業参加者の国際化に係る理解度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	48	50	52	54	%
実績	89	66	―	―	%

算出方法：「地域全体が多文化共生社会に向けて取り組んでいる」と回答した人数／アンケート回答者人数×100

アウトカム④

説明：市民の国際化に係る理解が深まる。

指標：市民対象事業参加者の国際化に係る理解度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	48	50	52	54	%
実績	89	66	―	―	%

算出方法：「地域全体が多文化共生社会に向けて取り組んでいる」と回答した人数／アンケート回答者人数×100

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

外国人市民等が暮らしやすいまちとなるよう、「多文化共生の推進」「国際化基盤の整備」「国際交流の推進」を基本方針に市の各施策が総合的かつ体系的に推進されている。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	外国人相談会の相談件数、講座への参加人数、交流事業の参加人数は企画・内容やプロモーションの手法を見直したことから、目標を超える成果を得た。また、通訳・翻訳サポーターの依頼件数はほぼ目標に到達しており、アウトカムの理解度も達成できた。
R7 年度	相談会の件数について、広聴相談課と連携することで2回開催したことから目標を達成した。通訳・翻訳サポーターの件数についてはほぼ目標に達している。一方で、交流事業の参加人数について、参加人数の主なウエイトを占めている「上海市長寧区児童書画展」の参加者が半減（R6年度は1,286名の参加に対し、R7年度は608名）したことで目標数値を達成できなった。講座の参加者数についてもR6年度と比べて減少していることから、企画内容が市民ニーズに合致していなかったと考えられる。
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度 取組方針	全庁的な多文化共生施策として「生活オリエンテーション」「国際理解」「庁内体制整備」の3つを主に取り組んでいく。また、外国人相談窓口開設といった庁内外国人施策の変更点を踏まえ、国際化施策推進委員会で調整した上で、生活ガイドの改訂を行う。生活ガイドには、外国人が日本で生活する上での留意点などをまとめた生活オリエンテーションについても新たに紹介ページを設ける。あわせて、日本人の多文化共生への理解を深めるため、引き続き、市民及び職員に対し国際理解講座を開催する。	R8年度 方向性	**現状維持**

参考					
方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　913

事務事業名称		観光交流課運営事務						
担当部署（R8年度機構）		部：　観光にぎわい部		課：　観光交流課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	9.施策体系外				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	99.施策体系外				性質	内部事務・行政運営	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　不明		～	事業終了予定：　未定（継続実施含む）			
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質：　—		
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	課の運営が円滑に行われている。						
	対象者（受益者）	課職員						
	現状・課題	課の運営を円滑に図る必要がある。						
	事業の概要	課の運営事務（予算・決算など庶務事務、都市ボートレース企業団関係事務など）						
	年間の主な事務	・決算処理 ・当初予算要求 ・実行計画の施策シート管理 ・部門会議、都市経営会議、委員協議会案件管理 ・庶務事務全般						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.95人	1.05人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.40人	0.20人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	7,304	8,619	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	1,287	875	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	8,591	9,494	—	—		
歳出	物件費計	290	135	—	—	3,528	3.8%
歳出計		8,881	9,629	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	440,728	525,663	—	—	525,663	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		440,728	525,663	—	—	525,663	
一般財源（物件費充当分のみ）		0	0	—	—	0	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① ―					

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	―
指標	―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					―
実績					―
算出方法	―				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	―
指標	―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					―
実績					―
算出方法	―				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

―

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	課の一般事務及び都市ボートレース企業団関係事務を実施した。
R7年度	課の一般事務及び都市ボートレース企業団関係事務を実施した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	引き続き、課の運営事務が円滑に行われるように努める。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　989

事務事業名称		幼児療育園跡地活用事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　観光にぎわい部		課：　観光交流課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	観光・プロモーション	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○	○		
	事業期間	事業開始：　2024（R6）年度　～　事業終了予定：　未定（継続実施含む）						
	根拠法令等	事務決裁規定						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	地域資源の魅力が発信され、交流人口が増加し地域経済が活性化される。						
	対象者（受益者）	市内在住者及び近隣市民、本市への観光客、市内事業者						
	現状・課題	市は、令和4年に枚方市観光ロードマップを策定し、枚方宿地区を観光施策の起点に捉え、毎月第2日曜に開かれる枚方宿くらわんか五六市をはじめ、定期運航が行われている淀川舟運事業や、広大な淀川河川公園を会場としたアウトドア・アクティビティ、年間100万人以上が訪れるひらかたパーク、そして、令和6年にオープンしたカンデオホテルズや枚方市観光案内所「Syuku56」をはじめとする再開発が実施された枚方市駅など、枚方市駅から枚方公園駅の一帯を重点エリアに定め、点在する各地域資源をつなぐ面で捉えた地域の活性化を目指している。当該跡地について、枚方宿と淀川の結節点として、賑わい創出の拠点となる集客、周遊をもたらせる地域連携を生む事業展開を行う必要がある。						
	事業の概要	平成31年に廃止された幼児療育園跡地を活用し、枚方宿地域の賑わい創出につながる施設を整備することで、枚方宿地域の魅力をより一層高めるとともに、本市全体の魅力を高め、居住人口及び交流人口の増加につなげようとするもの。本施設の整備及び運営については、最大限に民間活力を活用する観点から、事業者に市有地である敷地を貸し付け、事業者により施設整備及び運営までを担ってもらう民設民営で行う。						
	年間の主な事務	・令和6年度は、事業者選定審査会の運営及び公募プロポーザルの実施 ・令和5年度から実施している既存施設の解体設計及び、解体工事を実施する。						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制 （人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.90人	1.00人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	6.00人	0.00人	—	—

決算額 （千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	6,919	8,209	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	57	0	—	—		
歳出 人件費計	6,976	8,209	—	—		
歳出 物件費計	76,770	5,698	—	—	14,100	40.4%
歳出計	83,746	13,907	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	67,100	3,340	—	—	10,000	
歳入計（物件費に充当される特定財源）	67,100	3,340	—	—	10,000	
一般財源（物件費充当分のみ）	9,670	2,358	—	—	4,100	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 解体工事の実施	回	1 回	0 回	— 回	— 回
② 事業者公募の実施	回	1 回	0 回	— 回	— 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	公募プロポーザルに民間事業者が参加する。
指標	選定審査会により実施される公募プロポーザルへの参加社数。

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	3	—	—	—	者
実績	0	0	—	—	者
算出方法	公募プロポーザルに対し参加表明書を提出した事業者数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	円
実績	—		—	—	円
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

観光で本市を訪問した市外(国外含む)の方が、観光情報を得て本市の観光を楽しみ消費活動を行うことにより、本市の経済活性化に寄与する。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	民間事業者の視点では、土地活用に制約が多く事業収益性の低い土地であるという観点から、アウトプット指標の公募プロポーザルの参加事業者数について実績が目標を下回ったと考えられる。
R7年度	賑わい創出広場として暫定活用するための宅地造成工事等の設計を行った。また、民設民営手法による拠点整備に向け、事業者を対象としたヒアリングや座談会を開催した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	広場活用に向けた宅地造成工事と並行して暫定活用としての広場活用ルールを策定するほか、本格活用に向けた事業者ヒアリングを実施していく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—